2022年新春合同例会卓話

「つながる人・まち　彩りあふれる躍動都市・かごしま」　　　下鶴隆央市長

皆さま、こんにちは。鹿児島市長の下鶴でございます。鹿児島市内ロータリークラブの皆さまにおかれましては、市政の各面にわたり、ご理解とご協力を賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。そして、この度は、お話しを申し上げる機会を設けていただいたことに、厚くお礼申し上げます。

本日は、『つながる人・まち　彩りあふれる躍動都市・かごしま』と題して、新型コロナウイルスや人口減少の急速な進行などの課題に直面している今、本市の確かな未来の礎を築いていくための取り組みについて、ご説明いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、市政トピックスとしまして、新型コロナウイルス感染症対策に関するこれまでの取組などと、2021年の主な出来事についてお話しし、その後、マニフェストに基づく令和３年度の取組状況、4年度からスタートする第六次総合計画の策定、そして、総合計画に掲げた都市像の実現に向けた私の思いをお話しさせていただきたいと考えております。

それでは、はじめに、新型コロナウイルス感染症対策に関するこれまでの取組を振り返ってみたいと思います。まずは、皆さまには、感染対策に各面からご協力いただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。

 私が市長に就任してから、1年が過ぎましたが、就任直後から新型コロナウイルスへの対応を最優先に取り組んでまいりました。まず、ワクチン接種の取組ですが、医療従事者、高齢者施設入所者へ優先接種を行い、5月には、65歳以上の方への接種を開始しました。また、6月には、接種を加速するために桜島地区と南部保健センターに集団接種会場を追加設置しました。その後、年代ごとに順次受付を開始し、11月末には早期の接種を希望する方への接種を完了しました。8月には、全国的な爆発的感染拡大の中、本市でも過去最高の新規感染者数を確認し、国のまん延防止等重点措置地域に指定されました。このような中、私は、保健所体制の強化や医療機関との連携によるPCR検査体制の充実、市立病院のコロナ専用病床の増床など、　　コロナ対策の先頭に立ち、各面から迅速に対応してきたところです。そして、市民、事業者の皆さまのご協力により、10月1日に、まん延防止等重点措置が解除され、県からの不要不急の外出自粛要請のほか、飲食店の営業時間短縮や酒類提供停止の要請を終えることができました。

　それでは、新型コロナウイルスの感染状況について触れたいと思います。皆さまの感染対策のご協力や、ワクチン接種率の向上などもあり、感染者数は徐々に減少し、11月と12月はそれぞれ1人という状況でした。しかしながら、今年に入り、オミクロン株の爆発的な拡大を含め、全国的に新型コロナウイルスの感染が拡大している状況にあります。引き続き気を緩めることなく感染対策に取り組まなければなりません。皆さまにおかれては、ご自分や大切な方々を守るため、マスク着用、換気などの基本的感染対策の徹底について、改めて、よろしくお願いいたします。

ワクチン接種につきましては、12月1日から、3回目の追加接種を実施しています。原則、2回目接種から8か月以上経過した方が対象となります。医療従事者や高齢者の接種間隔については、前倒しを行っています。対象となる方には、順次接種券を発送してまいります。予防方

法等は1、2回目と同様です。専用のコールセンターでも受け付けますが、24時間受付可能なインターネットの予約システムを利用されるなど、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

それではここからは、2021年の市政の主な出来事について振り返ってみたいと思います。

 まずは新たな施設のオープンの話題としまして、3月26日には、平川動物公園の新コアラ館がオープンしました。11月にはコアラの赤ちゃんが誕生し、飼育頭数は国内最多の14頭になりました。4月1日には、鹿児島中央駅東口に観光案内所をオープンしました。手荷物の預かりや、休憩スペースのほか、案内スタッフも常駐しており、鹿児島の魅力をさらに発信してまいります。6月18日には、中央町19・20番街区に、県内で最も高いビルとなる 商業施設「Li-ka1920（ライカ　イチキューニーマル）」が全面開業しました。そして、センテラス天文館も昨年末に竣工し、今年の春のオープンに向け、準備が進められております。また、このビルの中に、本市において、天文館図書館の整備を進めております。本市としましても、にぎわいのあふれる都市空間の創出や憩いのある都市景観の形成を図り、中心市街地の活性化につなげてまいりたいと考えております。

次に、スポーツに関する主な出来事を振り返ってみたいと思います。皆さんの記憶にも新しいかと思いますが、昨年はオリンピックイヤーでした。各選手のめざましい活躍に感動しましたが、中でも、本市出身者でソフトボール日本代表の川畑選手が金メダルを獲得するという偉業を成し遂げられ、その功績に対し、本市として、スポーツ栄誉賞を贈呈しました。また、9月には、企業版ふるさと納税などを活用して、喜入地域に鹿児島ユナイテッドFCの専用練習場を整備しました。今後、予定しているクラブハウスの建設とあわせて、ユナイテッドＦＣの活動を支援するとともに喜入地域との結びつきを深める取組を進めてまいりたいと考えております。また、11月には「次世代のサッカー等スタジアムとまちづくり」のシンポジウムを開催し、私もパネラーとして参加して、鹿児島が目指すスタジアム像についてディスカッションを行いました。本市としては、スポーツを通じた活力あるまちづくりを推進しており、にぎわいの創出や、観光資源として期待される「稼げる」スタジアム整備へ取り組みを進めたいと考えております。

次に、本市で開催した主なイベントとしましては、11月2日に「かごしまオータムナイト大花火大会」の打ち上げ場所を市内22カ所に分散して実施し、11月3日の第70回おはら祭との連日開催としました。おはら祭では、約80の踊り連、2,800人が、秋晴れの下、華やかに練り踊り、感染症対策を徹底しながら、コロナに負けない鹿児島の元気と魅力を発信しました。また、12月3日からは天文館ミリオネーションを開催しており、天文館公園をメイン会場に約100万球のイルミネーションがまちを彩っております。コロナ禍において、様々な困難がある中で、皆さまとともに力を合わせながら、 鹿児島を盛り上げてまいりたいと考えております。

それではここからは、私のマニフェストに基づく令和3年度の取組状況についてお話いたします。3年度は、財政の健全性に意を用いつつ､新しい時代に対応する鹿児島市を創造するため､マニフェストに掲げたこれら4つの政策に、重点的に取り組みました。それでは、各政策

の取組状況についてご説明します。

1つ目の、「新型コロナから市民のいのち、くらし、しごとを守る」ですが、冒頭で申し上げましたとおり、徹底した感染拡大防止に取り組んだほか、社会経済活動の両立に取り組むとともに､コロナを克服した先にある本市の経済発展の基盤づくりを進めてまいりました｡社会経済活動の両立に関する主な取組としましては、地域経済の回復に向けて、経済、医療など関係団体の皆さんと情報共有や意見交換を行うコロナ対策関係者会議を昨年の7月と12月に開催いたしました。この関係者会議での意見などを参考に、事業者の事業継続や雇用の維持を下支えする、家賃支援金事業や雇用維持支援金事業など、各種施策を実施しました。また、市民生活への支援策として、育児応援金の支給や子ども食堂への助成などを行いました。また、市内の中小企業者等の商品販売やサービス、店舗のＰＲを図るため、ECサイト・ホームページ導入等支援事業を実施し、54件の事業者を選定しました。さらに、大きな影響を受けている飲食店を支援するとともに、地域における消費の喚起・下支えを行うため、市内飲食店等の利用に対し、　 ポイントを付与するプレミアムポイント事業を開始しました。なお、ポイント付与は電子決済に対して行い、新しい生活様式でもあるキャッシュレス決済の推進を図ってまいりたいと考えております。限度額を30万円に引き上げておりますので経済浮揚のために皆さまもぜひご利用ください。

2つ目の「鹿児島に稼げる仕事をつくる」についてですが、今後､人口減少に伴い､消費市場の縮小など、地域経済への深刻な影響が予想される中､国内外との人・モノ・情報の交流を通した“稼ぐ”取組がより一層重要になるものと考えております｡そこで、コロナ収束後を見据え､

観光産業を本市のさらなる成長のエンジンとして位置づけた取組や、国際都市づくりの推進、　また新しい産業・仕事の創出､ＣＴの積極的な活用に取り組んでまいりました｡観光面での主な取組としましては、コロナ後における観光の再生に向けた稼ぐ力を強化するため、顧客データを蓄積し、最適なサービスの提供に繋げていく、観光CRMアプリを活用した地域マーケティング等の実証実験を、桜島・錦江湾エリアで実施しております。今後、このアプリの加盟店舗を増やす取組や新規会員の獲得を進めてまいります。また、「MICE誘致戦略プラン」に基づき、

MICE開催を推進しているところです。令和3年度の上半期は、コロナの影響もあり、多くの大会等が中止となったものの、10月以降は回復傾向にあることから、コロナ後を見据え、さまざまな会議の誘致に取組んでまいります。また、コロナ収束後の観光需要回復を見据え、海外観光客のニーズやユニバーサルツーリズムの課題等の調査に取り組みました。このほか、磯新駅の設置に向けては、昨年3月に、民間が主体となった磯新駅設置協議会が、ＪＲ九州と覚書を締結し、10月には新駅設計に関する協定が締結されました。引き続き、本市は同協議会の事務局として、経済団体や県などと連携し取り組んでまいります。産業面での主な取組としましては、コロナ後の中長期的な経済ビジョンを描き、地域経済の重要な担い手である中小企業を中心とした商工業の振興を図るため、次期商工業振興プランの策定に取り組んでおります。また、本市への企業誘致に向け、企業への訪問活動を行ったほか、幕張メッセで開催された世界最先端の技術・製品・サービスが一堂に会する展示会ＪＡＰＡＮ　ＩＴ　ＷＥＥＫ（ジャパン

　アイティー　ウィーク）への出展などPR活動を実施しました。また、 農林水産業では、生産、加工から流通・販売に至るまでの6次産業化を推進する取組として、市内産農林水産物を活用した加工品開発に関する経費に対し、助成したほか、新商品開発のための研修会等を実施しました。

3つ目の、｢全ての人に希望とチャンスを｡安心して生活できる鹿児島をつくる｣ですが、本市が住みたいまちとして選ばれる都市になるためには､市民一人ひとりが､安心・安全に生活し､　希望を持って自分らしく活躍できる環境づくりが肝要です｡このため､待機児童ゼロの実現をはじめとした安心できる子育て環境づくりを進めるとともに､子どもたちが将来､社会で活躍できるよう､未来を担う人材の育成に取り組みました。また､人生100年時代を見据え､誰もが活力に満ち､明るく生き生きと暮らせるよう福祉施策を推進してまいりました。安心できる子育て環境をつくる取組では、待機児童の解消に向けて、さらなる保育士確保を図るため、学生向けに保育士等の仕事の魅力について情報発信を行うとともに、保育所等に勤務している保育士資格を有していない方の資格取得を支援いたしました。さらに、保育士への再就職を支援する保育士・保育所支援センターを設置し、保育士の専門性と質の高い人材の確保に努めております。

また、コロナ対策として、感染した妊産婦への電話や訪問等による相談対応や分娩前のPCR検査の費用助成など、不安を抱える妊産婦を支援するとともに、産後ケアが必要な母親に対する保健指導の対象期間を産後3か月以内から1年未満に拡充して実施しました。未来を担う人材育成の取組としましては、今後は、ICTを取り入れることが重要ではないかと考え、児童生徒の情報活用能力の育成を図るとともに、教科指導におけるICTの活用を推進しました。なお、現時点で、市内小中学校の児童生徒数の90％に対して、端末を整備しており、今月中に1人1台の端末整備が完了する予定となっております。生きがいにあふれる福祉を推進する取組としましては、高齢者の心身の多様な課題に対応し､きめ細かな支援を実施するため､医療・介護・健診データを分析し、地域の健康課題の把握や支援対象者を抽出する高齢者の保健事業と介護予防の取組を一体的に実施いたしました。

4つ目の「人口減少時代に生き残る鹿児島をつくる」ですが、人口減少の中、都市の持続可能性を高めていくためには、地域経済社会への影響や自然災害リスクの高まりなどの課題に対し､長期的視点に立ちながら、取組を進めていく必要があります。そこで、SDGｓを市民の共通目標としてまちづくりを進め､再生可能エネルギーの活用や防災対策の強化など、将来を見据えた対応を進めるとともに、市政運営において民間の力・知見の活用に積極的に取り組みました。まず、SDGｓの推進については、本市は、国のSDGｓ未来都市に選ばれており、昨年の11月15日には、SDGｓを共通目標として地域の課題解決に取り組むかごしまSDGｓパートナーシップ推進会議を開催し、多様な企業の交流・連携を進めました。今後も、市民への普及・啓発を行うほか、SDGｓの推進に積極的に取り組む事業者をパートナーとして登録するとともに、交流・連携を促進し、その取組の輪をさらに広げていきたいと考えております。再生可能エネルギーの活用の取組としましては、今月から、バイオガス施設と高効率発電施設を生かした、新南部清掃工場を供用開始しました。これにより、日本で初めて、生ごみや紙ごみなどから発生

したバイオガスを精製し、都市ガスの原料であるメタンガスとして供給することが可能となります。市政運営における民間の力・知見の活用の取組としまして、10月にＤＸ(デジタルトランスフォーメーション)を 推進する役割を担うCIO補佐官を任命しました。また、7月に窓口キャッシュレス決済を導入したほか、8月にスマホ24時間乗車券を導入するなどデジタル化を進めてきており、今後も新たな技術を、積極的に施策に取り入れ、DXの取組を推進し、行政運営の効率化を進めるほか、市民の方々が窓口にわざわざ来なくても手続きができるよう、利便性の向上を図ってまいりたいと考えております。また、新たな施策・事業の構築にあたり、今後、少子高齢化・人口減少が急速に進む中、効率的な事務事業の実現を図るため、データに基づく政策立案（EBPM）を本市行政に浸透させてまいります。また、私が地域に出向き、市民の皆様に市政の動向を報告し、伺った意見を施策に反映できるよう「市長と語る会」を12月末までに7箇所で開催しました。これまで、47団体、187人の方にご参加いただいており、今後もこのような語る会の場を設け、貴重なご意見を活かしたまちづくりを 進めてまいりたいと考えております。

さて、現在、本市では、令和4年度から10年間のまちづくりの基本的な指針となる新しい総合計画、「第六次総合計画」の策定を進めております。総合計画とは、市が行政運営を計画的に進めていくための最上位計画で、福祉、教育、産業など、あらゆる分野の施策について、長期的な視点に立ってとりまとめたものです。「第六次総合計画」では、10年間で目指す将来のまちの姿である「都市像」として、「つながる人・まち　彩りあふれる　躍動都市・かごしま」を掲げております。 市民一人ひとりが互いに尊重しあい、個性と能力を発揮しつつ、人やまちの多様なつながりを深めていくことにより、新たな価値が生み出され、多彩な人材やまちの魅力が豊かな彩りとなる、人もまちも躍動する鹿児島市の創造を目指してまいりたいと考えております。そして、「都市像」を実現するための基本目標として、「信頼・共創政策」、「産業・交流政策」など、6つの基本目標を掲げております。今後、少子高齢化や人口減少が進んでいく中、総合計画に基づいて、皆さまとともに考え、ともに行動する協働・連携のまちづくりを進めてまいります。また、総合計画はSDGｓとひもづけており、民間の事業所の皆さまとともに持続可能なまちをつくり、次の世代に引き継いでいきたいと考えております。かつて、幕末の混沌とした時代の中、鹿児島の地から日本の近代化を牽引した名君・島津斉彬公が、「人の和」を第一とされていたように、私は、これからの時代においても、人やまちのさまざまな「つながり」を大切にし、それを紡いでいく中で、活力や希望を生み出し、明るい展望を切り拓いていくことが 重要であると考えております。引き続き感染対策の徹底を図りつつ、アフターコロナも見据え、ICTのさらなる推進などにより、市民生活の利便性向上や産・観光の振興に 取り組むとともに、なお一層厳しさを増す行財政環境等を踏まえ、これまで以上に創意工夫を重ね、第六次総合計画の下で、市政がスタートする今年、「つながる人・まち　彩りあふれる　躍動都市・かごしま」の実現に向けて、全力を傾けてまいりたいと考えております。本年も市政の推進に、より一層のご理解と ご協力を賜りますようお願いいたします。

ご清聴いただき、ありがとうございました。